

第51回原子力委員会定例会議議事録（案）

1. 日 時 2000年8月22日（火）10：30～10：50

2. 場 所 委員会会議室

3. 出席者 大島委員長、藤家委員長代理、依田委員、遠藤委員、木元委員
（事務局等）科学技術庁
原子力局
中澤局長
小中審議官
動力炉開発課 和田課長
原子力調査室 伊藤室長、牧野原子力利用計画官、千原補佐、
山越、藤原、鯉淵、会沢
通商産業省 資源エネルギー庁
藤富審議官
長官官房 原子力産業課 結城
公益事業部 原子力発電課 入江課長、中村調査技術班長
長期計画策定会議 那須座長
吉舗専門委員

4. 議 題

- （1）原子力の研究、開発及び利用に関する長期計画案に対する意見募集及び「ご意見をきく会」の開催について
- （2）その他

5. 配布資料

- 資料1－1 原子力の研究、開発及び利用に関する長期計画（案）
- 資料1－2 原子力研究開発利用長期計画案の概要
- 資料1－3 長期計画案に対する意見募集及び「ご意見をきく会」の開催について

6. 審議事項

- （1）原子力の研究、開発及び利用に関する長期計画案に対する意見募集及び「ご意見をきく会」の開催について

標記の件について、長期計画策定会議那須座長より報告があった。これに対し、
長期計画策定会議では、単に原子力推進の意見だけでなく、多様な意見が出され有意義

な審議を頂けたと認識している。

原子力委員会としては、長期計画を策定するに当たり、21世紀に向けた原子力研究開発利用の全体像と長期展望を提示すること、国民及び国際社会へ向けたメッセージとしての役割を重視することを策定会議にお願いしたが、本日提出頂いた長期計画案は、そういった方向に沿った内容になっていると思う。

昨年のジェー・シー・オー事故等の影響により、原子力に対する国民の不安や不信が高まっている状況の中で、様々な論議を経て原子力研究開発利用の意義、役割を再確認して頂いたことは、大きな意義があると認識している。

今後広く国民の意見を募集し、あるいは策定会議委員が直接ご意見を拝聴するご意見をきく会の開催等により、原子力に対する信頼回復に積極的に取り組んでいくことが重要。従来の原子力長期計画は、エネルギー利用に重点が置かれていて、その分野の論議が中心であったと思う。しかし、今回の長期計画案では、エネルギー利用だけでなく、放射線利用をしっかりとおさえることが出来たことは良かったと思う。

21世紀を迎え、原子力の領域を広げて総合科学技術として捉えるという観点から、長期計画案における放射線利用はポイントの一つであると思う。

長期計画を策定していく中で、課題を抱えた原子力についてどうやって課題を解決していくかという点に対して、今後ご意見を頂くことになると思うが、少なくとも大きな柱として我々はこう考えているというメッセージがこの長期計画案には流れていると解釈している。

国民への発信と同時に、国際社会への発信も今後必要である。世界的にみても原子力に対して必ずしも順風が吹いていない状況の中で、日本が長期計画を策定しているということは国際社会から注目されており、2国間ベースで説明を行うとともに、IAEA、OECD/NEA、アジア原子力協力フォーラム等の場で説明し、理解を求めていく必要があると思う。

長期計画の策定に際しては、幅広い分野の方に委員として参加して頂き、非常に意味のある長期計画案が策定されたと考えている。

長期計画については、大詰めに近づいているとの認識を持っており、年内にまとめて頂く成果が国内外に向けて発信できるよう、委員の方には引き続きご協力をお願いしたい。

(那須座長) 原子力委員の方には、常時策定会議へご出席頂き感謝している。座長としては、策定会議委員の方々に自由に意見を言ってもらうことを常に考え、審議を進めている。原子力に対して賛成、反対いろいろな立場の委員がいるが、最終的には原子力をみんなで育てようという気持ちで長期計画を仕上げるのが大事であると考えている。これまで分科会が数多く開催され、分科会委員の方々にもすばらしいレポートを作成頂いたが、それらのレポートを丹念に読み、取捨選択し、討論頂いたことは、非常に良かったと思う。

等の質疑応答及び委員の意見があった。